

## 事例⑦ 三好市立辻小学校

<b>徳島県三好市</b> 	<b>モデル校</b>	<b>テーマ</b>	つながり、交わり、響き合い、学校・家庭・地域の三者協働で進める、子どもの生きる力を育む食育		
		<b>モデル校</b>	三好市立辻小学校		
<b>所在地</b>		〒779-4801 徳島県三好市井川町辻 53 番地1			
<b>学校給食</b>		共同調理場方式			
<b>栄養教諭</b>		<b>配置年</b>	—	<b>兼務状況</b>	共同調理場も兼務
<b>三好市</b>	<b>人口</b>	総人口 26,836 人, 年少人口 2,326 人 (8.7%) 【H27 国勢調査】			
	<b>学校数</b>	小学校 15 校、中学校 6 校、高等学校 (1 本校、2 分校)			
	<b>地域概況</b>	四国のほぼ中央に位置し、大歩危峡や祖谷のかずら橋、四国霊場第 66 番札所・雲辺寺など、自然と歴史資源が数多く残る。			

### I. モデル校の概要

明治 7 年に東井小学校として創立された辻小学校は、吉野川が北側に流れ、豊かな自然環境に囲まれた地域にあり、校区には学校教育に協力的な家庭と地域住民が多い。

辻小学校では、ランチルームでの一斉給食が行われており、衛生管理や食事マナーなどの指導の徹底がしやすい環境となっている。

学校給食は三好市学校給食センターから配送されている。学校給食センターは、小学校 10 校、中学校 3 校、幼稚園 8 園に対して約 1300 食を提供しており、栄養教諭が 2 人配置されている。

図表29 辻小学校の学級数及び児童生徒数(平成 29 年度)5 月 1 日

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援学級	計
学級数		1	1	1	1	1	1	2	8
児童数	男子	2	10	4	2	7	5	2	32
	女子	6	5	7	4	2	7	2	33
	計	8	15	11	6	9	12	4	65

### II. これまでの食育の取組状況

#### (1) 県による食育の推進に関する取組

徳島県では、平成 19 年に「徳島県食育推進計画」を、平成 23 年には「第 2 次徳島県食育推進計画」を策定し、食育に取り組んできたが、依然として朝食の欠食や野菜摂取不足などの課題がみられることから、平成 28 年 3 月に「徳島県食育推進計画 (第 3 次)」を策定し、『「健やか・だんらん・地産地消」徳島す・だ・ち大作戦』をキャッチフレーズに、食育を推進している。

平成 25 年度からは、「徳島県学校食育推進パワーアップ作戦」を展開しており、栄養教諭等が「担当市町村の小中学校の特定学年全学級にティーム・ティーチングとして入り、食に関する指導の授業をする」ことにより、学校における食育の推進を図っている。

栄養教諭の配置は平成 18 年度から始まり、平成 29 年 5 月 1 日現在、57 人が配置されている。また、各校に 1 人、食育リーダーを配置している。

## **(2) 市及びモデル校における食育の推進に関する取組**

### **① 三好市の食育推進に係るこれまでの取組**

三好市では、平成 26 年 3 月に「第 2 次三好市食育推進計画」を策定し、「市民一人一人が食の大切さを認識できるようにするとともに、地域全体の連携と協力によって食育に取り組むことにより、健康で心豊かな市民が暮らす」三好市をつくることを目標にしている。

地域の食に関する活動団体では、食育推進ボランティア（ヘルスメイト三好）が、野菜の紙人形劇を子供たちに披露したり、食育の日の普及活動など食生活に関する活動を行っているほか、生活改善グループの中には、地域農産物を利用した新たな特産品を開発したり、地域のイベントにおいて食事を提供するなどの活動を行っているグループがある。

### **② モデル校における食育の推進に係るこれまでの取組**

辻小学校では、「徳島県食育推進計画」に基づき、辻小学校食育全体計画を作成し、学校全体で食育に取り組んできた。

「徳島県食育推進パワーアップ作戦」の一環として、栄養教諭による食に関する指導を全体計画、年間指導計画に位置づけ、継続した取組を行っている。また、ランチルームでの学校給食を実施しており、全校一斉のランチルーム給食を「生きた教材」として活用した指導を行っている。

また、学校給食センターでは「給食のおはなし」を作成し、市内全校に配布しており、辻小学校では給食前に、給食委員の児童が「給食のおはなし」を読み、学校に配置されている食育リーダーが補足している。さらに、PTA 対象の給食試食会や、児童集会としての給食集会（食育集会）等を実施している。

## **(3) モデル校が抱える食育推進上の課題**

朝食摂取率や家族での共食についての現状は比較的良好ではあるが、家庭での野菜摂取率には偏りがみられ、児童の食の選択能力の向上と栄養バランスを考えた食事摂取が課題となっている。

また、地域の特産物や郷土料理への認知度が低く、地産地消や地域の食文化の継承も課題となっている。

給食指導においても、偏食や食べ残し、食事マナーについて依然として課題がみられ、より強固な家庭との連携・協力による食育の推進が必要となっている。

また、食育については受け身の保護者が多いのが実情であり、家庭でも改善への第一歩が踏み出せないでいることが課題となっており、今後食育の成果を家庭での実践につなげるためにも、食育を保護者自身が「自分ごと」として捉える環境づくりが求められている。

### Ⅲ. モデル事業の実施体制

#### (1) 県の推進体制

徳島県では、四国大学、鳴門教育大学の学識経験者のほか、徳島県栄養教諭・学校栄養職員研究会などによる、「つながる食育推進委員会」(18人)を設置している。

図表30 つながる食育推進委員会(県)の構成

有識者	四国大学教授1人、鳴門教育大学教授1人
栄養教諭	徳島県栄養教諭・学校栄養職員研究会会長1人
養護教諭	徳島県養護教諭協会会長1人
行政(県)	徳島県教育委員会(副教育長1人、教職員課長1人、学校教育課学力向上推進幹1人、生涯学習課長1人、体育学校安全課長・防災健康教育幹・指導主事各1人) 徳島県農林水産部次長1人、徳島県保健福祉部健康増進課長1人、 徳島県立総合教育センター次長1人
モデル校	三好市立辻小学校長1人
関係者	徳島県学校給食係校長会長1人、 徳島県PTA連合会長1人、徳島市・名東郡PTA連合会長1人

#### (2) モデル校における推進体制

モデル校においては、学識経験者、市栄養教諭、市学校教育指導員のほか、地域の食文化指導の連携先となっている辻長寿クラブなどが参加する「つながる食育推進委員会」(22人)を設置している。

図表31 つながる食育推進委員会の構成

モデル校	三好市立辻小学校長・教頭・研修主任・養護教諭・食育リーダー
関係者	三好市立辻小学校PTA会長1人、JA阿波みよし1人、辻長寿クラブ会長1人、 辻婦人会長1人、フレンドいかわ編集長1人
有識者	四国大学教授1人、鳴門教育大学教授1人
行政(市)	三好市栄養教諭2人、三好市学校教育指導員1人、学校支援員2人、 三好市教育委員会職員1人、三好市保健センター職員1人、三好市管理栄養士1人
行政(県)	徳島県教育委員会体育学校安全課(防災健康教育幹1人、指導主事1人)

#### (3) 連携機関及び連携内容

徳島県及び辻小学校校では、モデル事業の取組に対する指導・評価を得るとともに、実践に際してのアドバイスを得心のため、四国大学及び鳴門教育大学との連携を図っている。

図表32 徳島県の連携機関と連携内容

連携機関名	連携内容
四国大学	取組に対する指導・評価
鳴門教育大学	取組に対する指導・評価
徳島県PTA連合会	取組に対する評価 保護者や地域への啓発
徳島市・名東郡PTA連合会	取組に対する評価 保護者や地域への啓発
徳島県栄養教諭・学校栄養職員研究会	取組に対する評価 情報提供
徳島県養護教諭協会	取組に対する評価 情報提供

図表33 辻小学校におけるモデル事業での連携機関と連携内容

連携機関名	連携内容
四国大学生生活科学部 管理栄養士養成課程 教授	食育に関わる学校実践へのアドバイス 地域食育交流会での講演
鳴門教育大学 教職実践力高度化コース 教授	目標設定, 評価方法, 検証・改善について, 本事業全般にわたるアドバイス
徳島赤十字病院 医療技術部栄養課長	肥満傾向の児童への指導のあり方について, 予防を含め, 家庭への指導を行う
元綾川町立綾上中学校長	「子どもが作る弁当の日」講演と家庭への啓発。食農教育についてのアドバイス
三好市保健センター課長	地域・家庭における健康づくり等の情報共有
JA 女性部 井川支部長	親子料理教室指導
井川町長寿クラブ会長	地域の食文化指導
井川町婦人会長	親子料理教室指導
料理研究家	食卓を豊かにする郷土料理, 家庭料理についての講演と実習指導

#### IV. モデル事業の取組概要

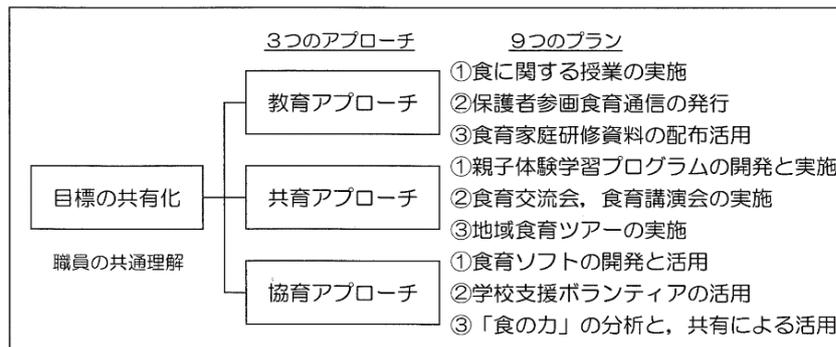
##### (1) 食に関する指導の全体計画の概要

辻小学校では、平成 29 年度の食育重点目標を「食に関する知識と食を選択する力を持ち、健全な食習慣を身につけた児童を育成する食育の推進と充実」としている。

##### ① 3つの「きょういく」アプローチ

辻小学校では、食に関する知識や自己管理能力を「食の力」と名付け、子供たちに「食の力」を付け、家庭や地域に発信して繋げていくことを目標に3つの「きょういく」アプローチと9つの実践プランで取組を進めている。

- 「教育」アプローチ…知識や理解を深める食育の推進を目指し、学校給食を中心として、食育全体計画に沿った指導と学校から家庭への食育啓発活動を行う
- 「共育」アプローチ…親子学習による食育の充実を狙い、親子が食育を学ぶ活動の組織化、食育を通じた学校と家庭の連携を図る
- 「協育」アプローチ…地域連携による食育の拡充を目標として、地域の教育力を学校や家庭の取組に効果的に活用する



**家庭や地域の実態**

- ・吉野川が北側に流れ、周りを緑に囲まれた地域である。
- ・学校教育に大変協力的な保護者や地域の方が多い。

**児童の実態**

- ・食に関する意識が高いが、家庭での野菜摂取率に偏りがみられる。また、食事のマナーが身につけていない児童もいる。
- ・朝食を食べてきてはいるが、食事内容に課題がみられる。

**学校教育目標**  
 人権尊重の精神を基盤に、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する実践力をもつ、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

**食育目標**  
 生涯にわたり健康な生活を送るために、基本的な生活習慣を身に付け、自分の体の変化について知り、正しい食生活を実践する態度の育成

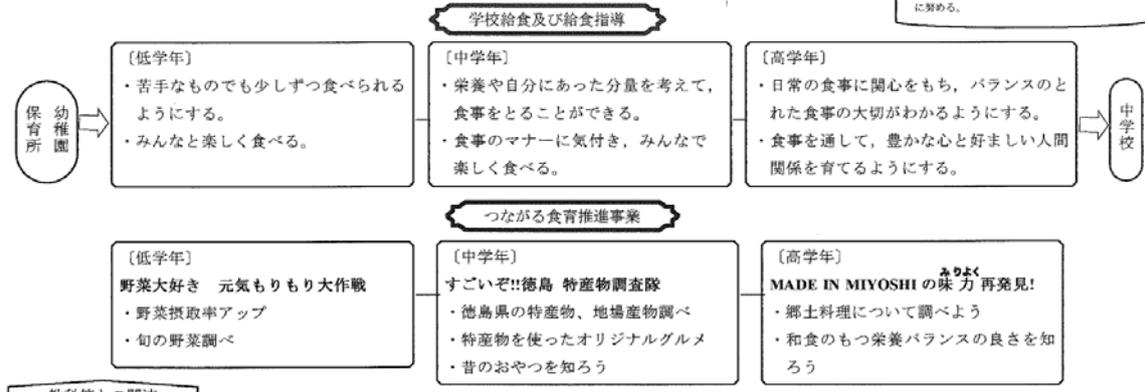
○食の重要性 ○心身の健康 ○食を選択する能力 ○感謝する心 ○社会性 ○食文化

**三好市の食育推進計画**  
 (目標)

市民一人一人が食の大切さを認識できるようにするとともに、地域全体の連携と協力によって食育に取り組みることにより、健康で心豊かな市民が暮らす三好市をつくること。

- ・食に関心を持つ地域の取り組みを増やす。
- ・食材料の地場産物使用の拡大を図る。
- ・各教育機関における食育を推進する。
- ・「毎月19日は食育の日」を普及する。
- ・食育推進ボランティアの養成・会員数の増加に努める。

**【本年度の食育重点目標】**  
 食に関する知識と食を選択する力をもち、健全な食習慣を身につけた児童を育成する食育の推進と充実



教科等との関連

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>学級活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい給食</li> <li>・好き嫌いなく何でも食べよう</li> <li>・げんきなこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい給食</li> <li>・何でも食べて元気いっぱい</li> <li>・野菜パワーで元気いっぱい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのわたしの朝ごはん</li> <li>・食事のマナー</li> <li>・みんなで野菜を育てよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのわたしの朝ごはん</li> <li>・係の仕事を振り返ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かむといいこと</li> <li>・梅雨時の衛生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ごはんについて考えよう</li> <li>・バランスのよい献立を考えよう</li> <li>・病気の予防</li> </ul>
<b>教科・道徳</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国語) ・サラダでげんき</li> <li>(生活) ・町たんけんにいこう</li> <li>・ひとつぶのたねから</li> <li>・ひろがれ えがお</li> <li>・しゅうかくしよう (園工)</li> <li>・ごちそうパーティーをはじめよう!</li> <li>(音楽) ・わくわくキッチン (道徳)</li> <li>・げんきなこ</li> <li>・きゅうしょくしつをみて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(生活) ・おいしい野菜を育てよう</li> <li>・町たんけんに行こう</li> <li>・これまでのわたし これからのわたし</li> <li>・しゅうかくしよう</li> <li>・これまでのわたしこれからのわたし (道徳)</li> <li>・サラダづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社会) ・店で働く人と仕事</li> <li>・農家の仕事</li> <li>・古い道具とくらし</li> <li>・昔のくらし (体育)</li> <li>・毎日の生活とけんこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国語) ・くらしの中の和と洋</li> <li>(社会) ・ごみの処理と利用</li> <li>・わたしたちの県 (体育)</li> <li>・育ちゆく体とわたし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社会) ・米作りのさかんな地域</li> <li>・水産業のさかんな地域</li> <li>・これからの食料生産 (家庭)</li> <li>・はじめてみよう! クッキング</li> <li>・食べて元気に</li> <li>・家族とほっとタイム (体育)</li> <li>・心の健康 (道徳)</li> <li>・家族はチームワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(国語) ・海のいのち (社会) ・世界の中の日本 (理科)</li> <li>・植物と養分</li> <li>・食べ物の消化と吸収 (家庭)</li> <li>・朝食バイキングに挑戦しよう</li> <li>・くふうしよう 楽しい食事</li> <li>・感謝の気持ちを伝えよう</li> <li>・共に生きる生活</li> </ul>
<b>総合的な学習の時間</b>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の特産物を使ってオリジナルグルメを作ろう!</li> <li>・伝えよう! 徳島のじまん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の特産物を使ってオリジナルグルメを作ろう!</li> <li>・伝えよう! 徳島のじまん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べて伝えようさまざまな食と生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「郷土のほこり」を調べよう</li> <li>・伝えよう 日本のよさ</li> </ul>
<b>給食委員会の活動等</b>	給食集会 (給食クイズ・食事マナーアップ作戦) ・給食の献立名と3つの食品群の確認					
<b>学校行事</b>	地域食育ツアー ・親子体験学習プログラム ・食育講演会 ・身体測定 ・修学旅行 (朝食バイキング) ・遠足 ・宿泊学習					
<b>家庭・地域との連携</b>	食育通信 ・ほけんだより ・学級通信 ・辻っ子農園 ・長寿クラブとの交流					
<b>地場産物活用等</b>	給食時間での委員会による地場産物の紹介 ・辻っ子農園で収穫した野菜の活用 ・簡単ヘルシーおやつ作り実習					
<b>個別相談指導</b>	食物アレルギー個別対応 ・肥満傾向のある児童への指導 ・給食時間の個別指導					

## (2) 学校における主な取組や指導内容

### ① 食に関する授業の実施

児童の食の選択能力向上や栄養バランスを考えた食事摂取、食事マナーや衛生管理などの食に関する課題を踏まえ、全ての学年でそれぞれのテーマや課題に合った食に関する指導を実施した。栄養教諭が学級担任や養護教諭と連携した授業を実施し、他の教職員にも授業を公開している。

栄養教諭が専門性を生かした指導や、学級担任等への助言を行うことにより、児童の食に関する意識や食習慣の変容につながる効果的な授業実践を展開している。

#### ■食に関する指導内容の一例

学年	教科	単元
1年	学級活動	めざせ手洗い名人
2年	学級活動	野菜大すきもりもり大作戦
3年	学級活動	食事マナーアップ大作戦
4年	総合	おやつのでき方を考えよう
5年	学級活動	プラス1コンビニ弁当活用術
6年	家庭科	朝食バイキングにチャレンジ

### ② 食育ソフトの開発と活用

「食の力」を数値化して評価するためのシステムとして、食育ソフト「めざせ！スーパー元気！」を作成した。客観的な評価指標を児童・保護者・教職員の三者が共有することで、同じ方向を目指して食育を進めることを目的としたものである。

評価は、『食の力』チェックシート』を用いて行い、個々のデータは教師が食育ソフトに入力し、プリントアウトした個票とチェックシートを家庭に配布するようになっている。



【食育ソフトの画面】

『食の力』チェックシート』は、分かりやすい表記や自己評価しやすい内容に配慮して作成しており、6観点（食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化）30項目で児童一人ひとりの状態を点数化（120点満点）し、6つの観点毎に点数とコメントが示される。

また、『食の力』チェックシート』を冬休みに家庭でチェックしてもらうことにより、社会性や食文化なども食育の観点であるとことを保護者に啓発する機会ともなっている。

このソフトを使用することにより、「6つの食に関する指導の目標」について、それぞれの項目ごとに児童の食に関する知識の理解度を容易に把握することができるようになり、望ましい「食の力」の全体像を明確にするものとして、効果的な食に関する指導が実施できるようになった。

『食の力』チェックシート』の集計結果は、学年別のレーダーチャートで分析し、指導に役立てている。例えば、5・6年生は食文化の点数が低かったため、6年生向けに栄養教諭による「和食のよさを発見しよう」の授業を実践した。

### (3) 家庭や保護者との連携による取組内容

#### ① 保護者参画食育通信の発行

食育通信「でこまわし」は、「食育通信編集企画会」に公募した保護者（7人）が参画して制作している。（「でこまわし」とは、徳島県の特産物（サトイモの味噌田楽）の名称）

学校からの一方向の伝達ではなく、保護者の要望を聞き、知りたい情報を掲載することで興味をもって読んでもらうことを意図しており、編集企画会で出された保護者からの意見や感想等を食育通信に掲載するなど、保護者の声を直接家庭に届ける機会にもなっている。

なお、この食育通信（平成 29 年度は 4 回発行）をはじめ、食育に関する通知や資料をファイリングできるように「すだちくんファイル」を各家庭に配布している。

平成 30 年度からは、「食育通信編集企画会」を発展させ、PTA 組織として食育部会を設置し、継続する予定である。

#### ② 食育家庭研修資料の配布と活用

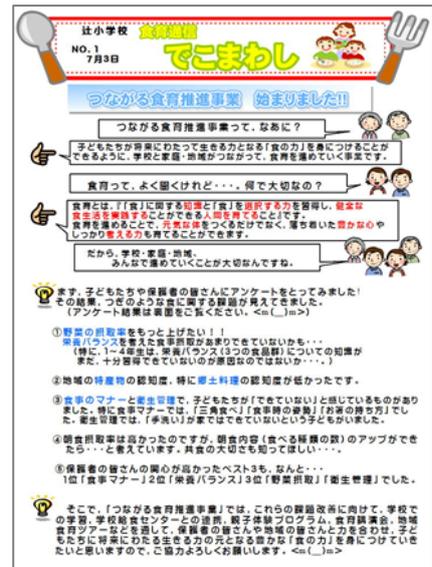
食育通信「でこまわし」の一環として、家庭で食育について学ぶための研修資料も作成・掲載している。

この研修資料は、食育通信の編集企画会で出された保護者からの意見を踏まえて作成している。例えば、「特産物や郷土料理について子供が家で話してくれたが、どんな料理か分からなかった」という意見を踏まえ、徳島県の特産物や郷土料理を紹介した資料を作成・配布した。このほか、「お箸正しく使えていますか」や「我が家の料理大紹介!!」など様々なテーマの研修資料を作成・配布している。

#### ③ 親子体験学習プログラムの開発と実施

親子体験学習プログラムとして、3・4年生の総合的な学習の時間では親子調理実習として「すだちゼリー」づくり、5・6年生の家庭科では、親子料理教室として郷土料理「金時豆入りばら寿司・ふしめん汁」づくりを行った。参加した児童は、徳島県の特産物などを実際に調理・試食することで、地域への愛着が強まり、保護者からも、家でもすだち以外の特産物を使った料理を作りたい、このような機会を増やして、食に対する興味を高めたいとの声が聞かれた。

また、5・6年生の体育では、徳島赤十字病院医療技術部栄養課長を講師に迎え「食習慣改善」をテーマにした講話を行った。「子どものうちに身につけておきたい食について」という演題で、参加した保護者をはじめ、児童にも分かりやすいよう、演習を取り入れながら講話を行った。



【食育通信でこまわし】



【食育家庭研修資料】



【親子料理教室】



【親子体験学習プログラム講話「食習慣改善」】

#### (4) 生産者や地域との連携による取組内容

##### ① 食育交流会、食育講演会の実施

地域食育交流会として、交流会、食育講演会、三世代交流パネルディスカッションを同日開催した。

交流会では、「食を語ろう 食で語ろう」をテーマに、図書室を会場に児童と保護者、地域の人が、半田ソーメンと手作りパウンドケーキを食べながら、「今のおやつと昔のおやつ」について話し合い、交流を深めた。おやつは、辻まち生活圏活性化協議会の「ニコニコ朝市」の協力を得て提供している。様々な世代の人々と交流することで、児童の視野が広がり、昔のおやつの様子について今の自分たちのおやつと比べながら、食生活を見直すことで、健康な暮らしについて考える機会となっている。

続いて行われた食育講演会では、四国大学生生活科学部教授を講師に招き、「食でつながる〇〇〇」の演題で講演が行われ、児童は食について班で話し合い、自分たちの考えを発表した。

最後に行われた三世代交流パネルディスカッションでは、「家庭の食卓 地域の食卓」をテーマに、四国大学生生活科学部教授をコーディネーターとして、地域代表（婦人会会長）、保護者代表（PTA会長）、教職員代表（学校栄養教諭）、児童代表（6年生児童2名）の5名がパネラーとなり、食との関わりについての思いや考えを語りあった。



【交流会】



【食育講演会】



【パネルディスカッション】

##### ② 地域食育ツアーの計画と実施

地域食育ツアーとして、西祖谷訪問、給食センター・農場見学を行った。

西祖谷への地域食育ツアーには、希望する児童・保護者のほか、辻小食育推進委員、教職員の合計63名が参加し、でこまわしなどの郷土料理の調理体験を通して、地元の食材を工夫して作る郷土料理について学んだ。また、西部県民局美馬庁舎農林水産部の職員を講師に招き、「食について学ぼう 食の大切さ」の演題で講義を行った。参加した保護者からは、現地へ行って体験することで、郷土の良さに改めて触れることができ良かったとの声が聞かれた。

給食センターの見学（1～4年生）では、調理の様子を見学したり、調理器具を触っての調理疑似体験が行われ、栄養教諭からは、給食センターの施設の説明や給食を作る苦労や工夫について講話を行った。給食ができるまでの様子を見学し、調理員や栄養教諭の仕事を理解することで、児童の残さず食べようとする気持ちの高まりにつながっている。

井内地区の多美農場見学（1・2年生）では、野菜を工夫して栽培している様子を見学や、トマトと人参の収穫を体験した。野菜の育て方を知り、食材に対する興味が高まったとともに、生産者の苦労に気付き、感謝して食べる心が育ちつつある。



【西祖谷訪問】



【給食センター見学】

### ③ 学校支援ボランティアの活用

地域ボランティアに食育交流会や親子体験学習プログラム等で支援を得ており、子供の食育の学びを広げている。また、食育図書コーナーの設置や食育教材（野菜モデル）の制作にも地域住民の協力を得ており、子供が食育を学ぶ場としての環境整備が次第に整いつつある。



【学校支援ボランティアによる食育教材の制作】

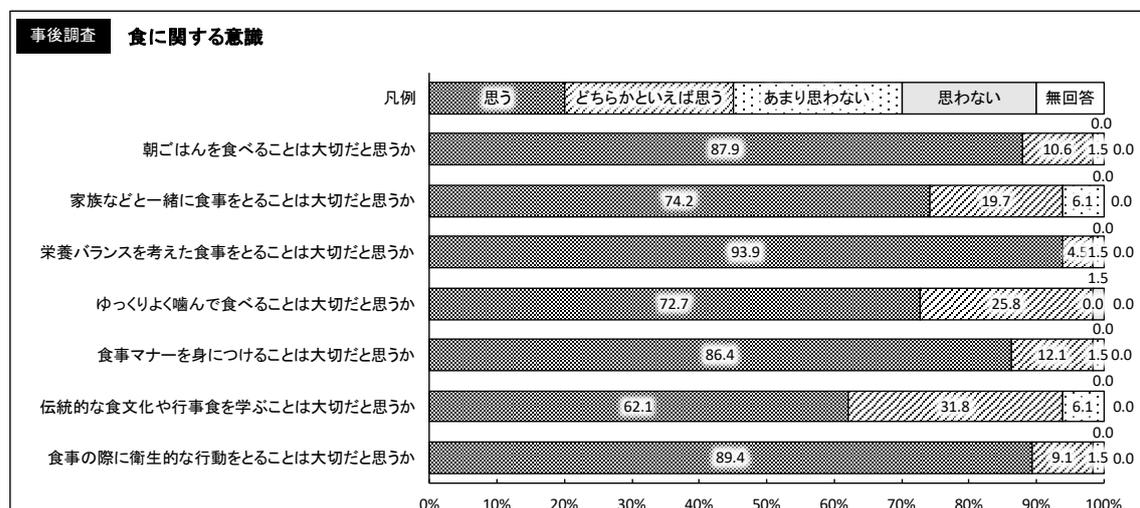
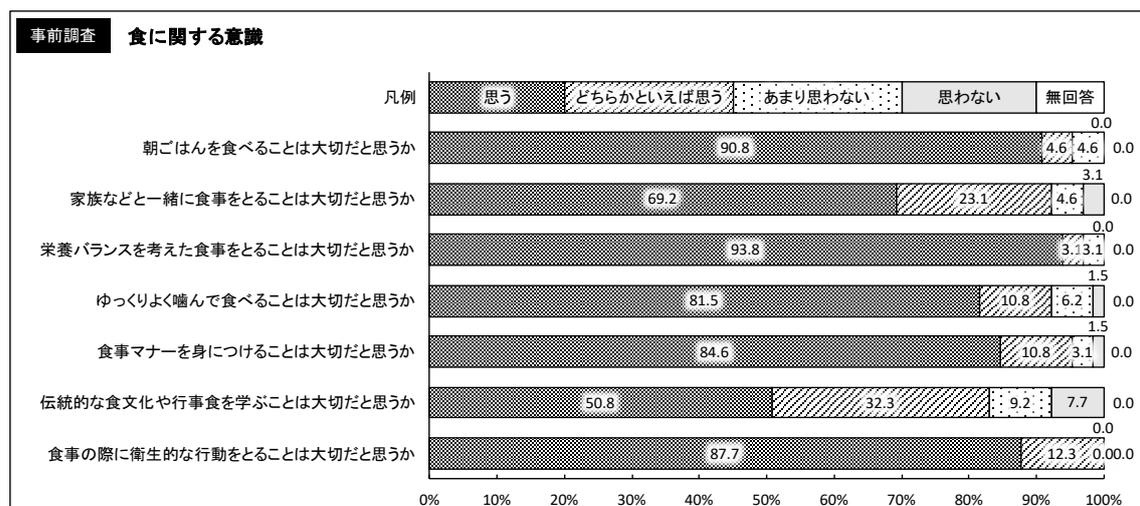
## V. 取組の成果と今後の課題

### (1) 児童アンケート調査（事前・事後）の結果からみた取組成果

#### ① 児童の食に関する意識の変化

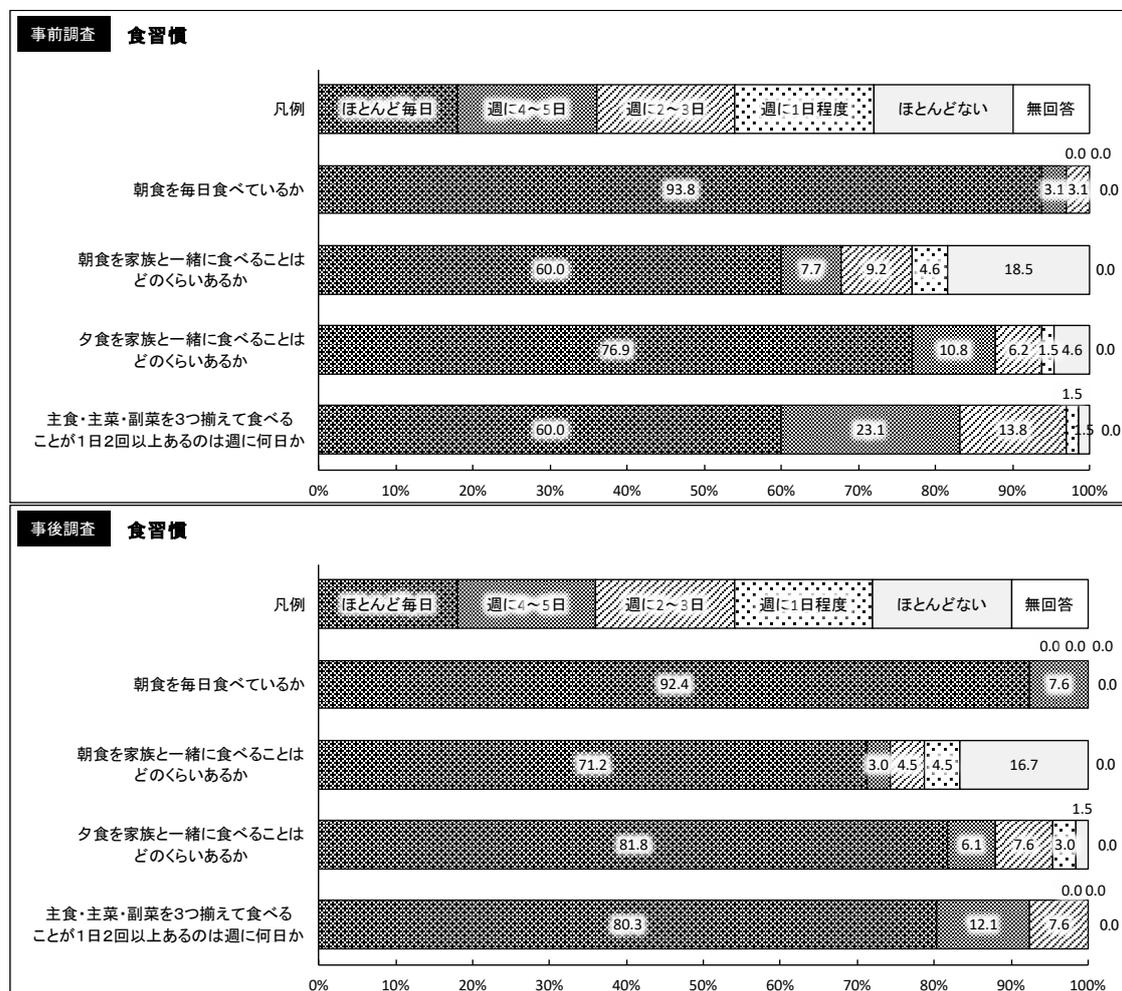
児童の食に関する意識をみると、大切だと思うこととしては、「朝ごはんを食べること」や「栄養バランスを考えた食事をとること」、「食事の際に衛生的な行動をとること」、「食事マナーを身につけること」の割合が比較的高くなっている。

また、児童の食に関する意識を事前調査と事後調査で比較すると、「伝統的な食文化や行事食を学ぶこと」が大切と思う児童の割合が約 11 ポイント向上している。



## ② 児童の食習慣の変化

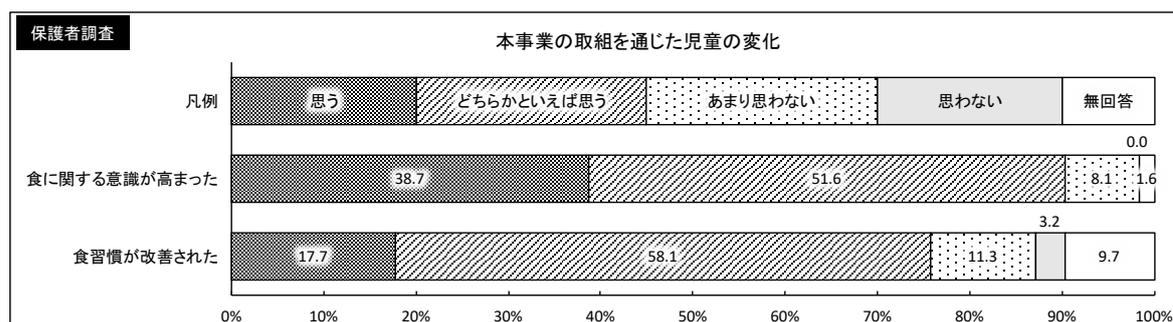
児童の食習慣の変化をみると、朝食を家族と一緒に食べる頻度や、栄養バランスを考えた食事の頻度（主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べることが1日2回以上ある日数）で改善がみられ、「ほとんど毎日」の割合がそれぞれ約11ポイント、約20ポイント向上している。



## (2) 保護者アンケート調査の結果からみた取組成果

### ① モデル事業の取組を通じた児童の変化

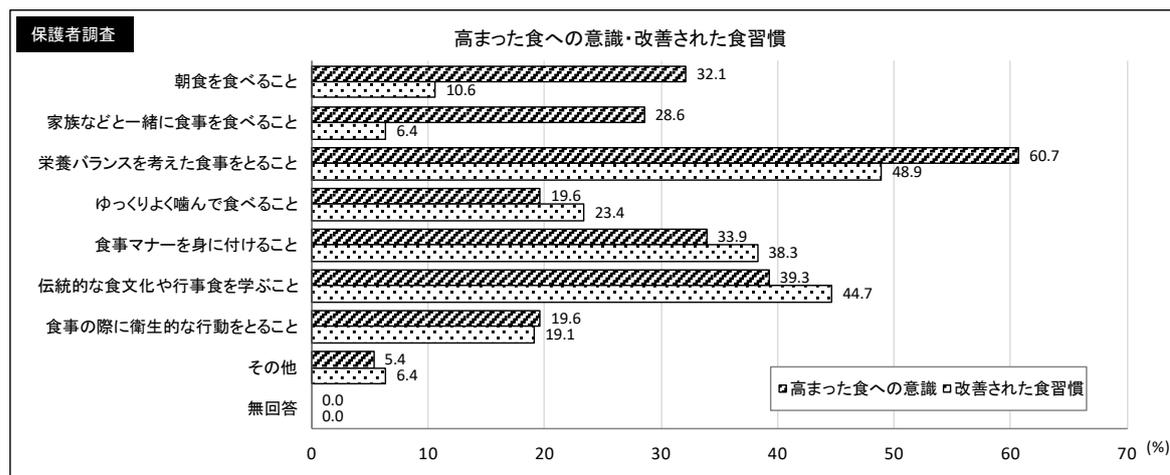
約4割の保護者は、モデル事業の取組を通して児童の食に関する意識が高まったとしており、「どちらかといえば（高まったと）思う」も含めると、約9割の保護者が児童の食に関する意識の高まりを認識している。また、児童の食習慣が改善した（思う+どちらかといえば思う）とする保護者も8割近くを占めている。



## ② 食に関する意識のうち高まったもの・改善された食習慣

保護者からみて子供のどのような食に関する意識が高まったか、あるいはどのような食習慣が改善されたかを具体的にみると、「栄養バランスを考えた食事をとること」や、「伝統的な食文化や行事食を学ぶこと」、「食事マナーを身に付こと」の割合が高くなっている。

児童へのアンケートにおいて改善がみられた「栄養バランスを考えた食事の頻度」や、意識の高まりがみられた「伝統的な食文化や行事食を学ぶこと」、「食事マナーを身につけること」などについては、保護者からも取組を通じた子供の変化として認識されており、着実に家庭でも実践されている様子が見えてくる。



## (3) 独自評価指標等からみた取組成果

辻小学校が6月と1月に児童を対象に行った独自調査での指標をみると、多くの項目で改善がみられており、特に徳島県の特産物や郷土料理の認識度が大きく向上している。

図表34 辻小学校独自アンケートによる評価指標

テーマ	設問	回答	回答割合	
			H29.6	H30.1
家庭での食事	野菜を食べる理由	栄養バランスを考えて	27.7%	47.0%
3つの食品群の働き	食品は働きによって3つのグループに分けられることを知っているか	知っている	89.2%	100.0%
	(知っている場合)どんな時に知ったか	学校の授業で	5.2%	48.5%
徳島県の特産物	鳴門金時	知っていて食べたことがある	47.7%	95.5%
	鳴門わかめ	知っていて食べたことがある	26.2%	97.0%
徳島県の郷土料理	でこまわし	知っていて食べたことがある	29.2%	48.5%
	金時豆入りばら寿司	知っていて食べたことがある	23.1%	48.5%
食事マナー	食事のとき、肘をついたり脚を組んだりせずに食べているか	家でも学校でもしている	47.7%	63.6%
	配膳に気をつけて食器を並べることができきるか	家でも学校でもしている	53.8%	71.2%
保健・衛生	食事前に手をきれいに洗っているか	はい	60.0%	75.8%

※一部抜粋、(株)シンクタンクみらいにて再計算

#### (4) 取組成果のまとめ（総括）

辻小学校では、食に関する指導に対する学校長の理解とリーダーシップのもと、全教職員が連携・協力して、食に関する指導に関わり、継続的かつ効果的な指導が行われている。

栄養教諭が学級担任や養護教諭、食育リーダーと連携してのティーム・ティーチングや給食指導などを通して、教職員に食に関する指導の方法を伝え、栄養教諭が配置されていなくても学校全体で食育に取り組む連携体制づくりができています。

様々な取組の中でも食育ソフトの開発は、児童の個々の食に関する知識の理解度を把握でき、かつ児童・保護者と学校の3者で意識の共有が図られることから、より効果的かつ目標に向けた重点的な食に関する指導ができるようになり、児童の食事マナーへの意識や赤・黄・緑の3つの食品群についての理解度も大きく向上している。

さらに、特産物に関する栄養教諭の給食指導、給食での特産物・郷土料理の提供（全学年）、親子体験学習での「金時豆入りばら寿司・ふしめん汁」づくり体験などが、伝統的な食文化や行事食を学ぶことは大切だと思う児童の割合の増大につながっている。

一方、家庭や地域へのアプローチとして、保護者や地域の人々を招いた親子体験活動や食育交流会・食育講演会の開催、保護者の参画による食育通信の発行などを進めており、保護者の約6割が何らかのプログラムに参加している。さらに、地域ボランティアや地域の既存の団体等とも密接な連携を図ることにより、地域全体での食育のネットワークを構築することができている。

こうした取組により、特に課題であった「栄養バランスを考えた食事をとること」「伝統的な食文化や行事食を学ぶこと」「食事マナーを身につける」ことに関して、短期間で児童の意識や行動に変容がみられている。

## VI. 取組成果の普及方策

---

活動の成果を学校ホームページに掲載するとともに、徳島県学校食育推進研修会（県下全公立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・市町村食育担当者が参加）において成果を報告する。また、事業報告書を作成し、広く関係機関に配布し成果を周知することを予定している。

## 事例⑧ 宇美町立宇美小学校

<b>福岡県宇美町</b> 	モデル校	テーマ	食生活習慣を改善し、進んで健康な体づくりに取り組む子どもの育成～みんなで取り組む「つながり」を大切にしたい夢ビジョン UMI 食育プログラム～			
		モデル校	宇美町立宇美小学校			
		所在地	〒811-2101 福岡県糟屋郡宇美町宇美3丁目9番1号			
		学校給食	単独調理方式			
		栄養教諭	配置年	平成 27 年度	兼務状況	宇美小学校のみ勤務
	宇美町	人口	総人口 37,927 人, 年少人口 5,529 人(14.6%) 【H27 国勢調査】			
		学校数	小学校 5 校、中学校 3 校、高等学校1校			
		地域概況	福岡市のベッドタウンとして発展している自然豊かな町で、小学校区を単位とする地域コミュニティの推進をはじめ、協働のまちづくりを進めている。			

### I. モデル校の概要

宇美小学校は、開校 144 年の長い歴史と伝統をもち、コミュニティ・スクールとして地域とともに「ふるさと宇美を愛し、たくましく生きる子どもの育成」をめざしている。

校区には宇美八幡宮や光正寺古墳、大野城跡など歴史的遺産が多くあり、伝統的な行事が地域に根付いている。また校区には、昔からの住人が多いほか、祖父母と同居している家庭が多く、育成会活動が盛んに行われている。近年は福岡市のベッドタウン化が進み、年々児童数が増加している。

図表35 宇美小学校の学級数及び児童生徒数(平成 29 年度)4 月 25 日

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援学級	計
学級数		3	4	3	3	4	4	4	25
児童数	男子	51	54	56	61	64	61	12	359
	女子	53	54	55	52	55	49	9	327
	計	104	111	116	113	119	110	21	686

### II. これまでの食育の取組状況

#### (1) 県による食育の推進に関する取組

福岡県では、平成 17 年度に「ふくおかの食と農推進基本指針」を策定し、食育や地産地消の取組を進めてきた。その結果、食育キャンペーンや早寝早起き朝ごはん運動の実施等により、学校給食への県産農林水産物の導入が進むなど、一定の成果が挙がってきた。

しかしながら、食生活においては依然として野菜等の摂取が不足し、生活習慣病の割合が高い状態が続いていたほか、農林水産物の担い手の減少や高齢化による活力の低下も見られていた。

このため、福岡県では「福岡県食育・地産地消推進計画」を平成 25 年 3 月に策定し、食育・地産地消のさらなる推進を図っている。

現在は、新たに設立した「食育・地産地消ふくおか県民会議」を推進母体として、「いただきます！福岡のおいしい幸せ」を県民スローガンに展開している。

栄養教諭の配置は平成 18 年度から始まり、平成 29 年 5 月 1 日現在、352 人が配置されている。

また、平成 28 年度に「スーパー食育スクール事業(以下、「SSS 事業」という。)」として実施された宇美小学校の取組は、福岡県ホームページや各種研修会、広報紙等で普及を図っている。



## (2) 町及びモデル校における食育の推進に関する取組

### ① 宇美町の食育の推進に係るこれまでの取組状況

宇美町では、宇美町教育施策要綱に明記された「食育推進に関する内容」に基づき、小中学校において食育を推進している。各小中学校では、学校における食育の推進のため、各教科や領域、総合的な学習の時間、学校行事等の教育活動全体を網羅した「食に関する指導の年間指導計画」を作成し、食育に関して計画的に取り組んでいる。

#### ●平成 27 年度宇美町教育施策要綱に明記された食育推進に関する内容

学校における食育の推進のため、各教科や領域、総合的な学習の時間等の学校教育活動全体を通じて、食に関する取組を進めます。また、各学校において「弁当の日」を実施し、子ども達の食に対する興味を持たせ、食育の推進に努めます。

### ② モデル校における食育の推進に係るこれまでの取組

宇美小学校では、平成 20 年度に「自己をみつめる子どもを育てる食に関する指導～食に関する指導の工夫と家庭との連携活動を通して～」をテーマに給食研究発表会を開催した。平成 21 年度には、学校給食表彰（文部科学大臣表彰）を受賞している。

平成 28 年度には、SSS 事業の実施校として、「食生活習慣を改善し、進んで健康な体づくりに取り組む子どもの育成」をテーマに掲げ事業を推進した。

SSS 事業では、特別活動・体育科（保健領域）を中心とした保護者参加・公開型の食に関する指導や総合的な学習の時間・生活科を中心とした体験的な食に関する指導に取り組んできた。また、宇美町給食応援団による給食訪問サポートや家庭と連携しながら行う「子どもが作る弁当の日」の実施、「子ども料理名人」の認定、担任・栄養教諭・養護教諭・町の保健師が連携して個別指導を行う仕組みづくりなど、平成 29 年度のつながる食育推進事業にも引き継がれる様々な食育に関する取組が行われてきた。

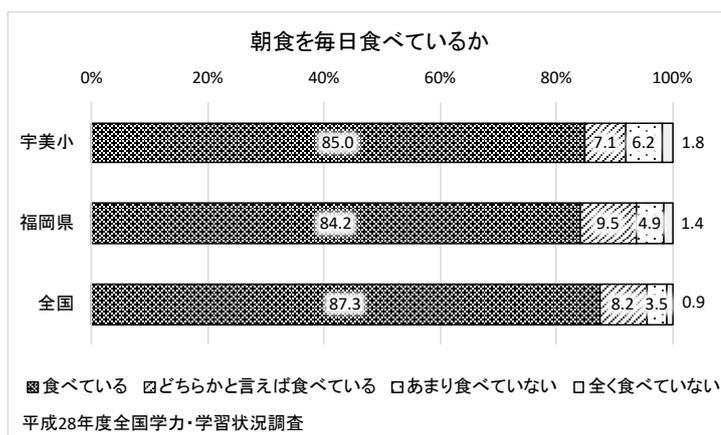
### (3) モデル校が抱える食育推進上の課題

平成 28 年度全国学力学習状況調査によると、朝食を「あまり食べない」「全く食べていない」と回答した児童が 8.0%となっており、朝食を食べる習慣が身に付いていない児童が見られている。

また、平成 28 年度に希望する児童・保護者を対象に実施した血液検査の結果、児童の約 3 割（保護者は約 4 割）について糖尿病の

診断基準となるヘモグロビン A1c の値が、特定健康診査・特定保健指導の保健指導の対象者を抽出するための基準値を超えていることが明らかとなっている。

平成 28 年度に実施した SSS 事業により、児童の食に対する意識の向上は認められたが、その後の行動化、習慣化にまでは至らなかった。また、一部の保護者だけではなく、より多くの保護者が「食」について自分自身や児童の切実な課題として考える機会を増大させることが求められていた。



## Ⅲ. モデル事業の実施体制

### (1) 県の推進体制

福岡県では、「福岡県つながる食育推進事業推進委員会」が設置されており、平成 28 年度の SSS 事業における推進委員会の体制を引き継ぎ、宇美小学校における取組の一層の充実を図っている。

有識者として福岡女子大学、九州栄養福祉大学の関係者が参加し、SOC（首尾一貫感覚）等の評価分析やアンケート結果に基づくプログラムの見直しなどへの助言を行っているほか、福岡県と「社会貢献に関する包括連携協定」を、また宇美町と「健康増進に関する包括連携協定」を締結している大塚製薬(株)も、協力企業として参加している。

図表36 福岡県つながる食育推進事業推進委員会の構成

有 識 者	・福岡女子大学名誉教授、教授及び講師3人・九州栄養福祉大学准教授1人
行 政（ 県 ）	・県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課長1人・教育事務所指導主事1人
行 政（ 町 ）	・宇美町教育長1人 ・宇美町教育委員会(学校教育課長1人・指導主事1人・係長(管理栄養士)1人) ・宇美町役場健康づくり課長1人・宇美町役場農林振興課長補佐(食育担当)1人
関 係 者	・協力企業(大塚製薬(株)福岡支店)1人・宇美町商工会代表1人 ・宇美町食育推進アドバイザー1人・宇美町健康づくり推進会長1人
モ デ ル 校	・校長1人・主幹教諭1人・栄養教諭1人・養護教諭1人・PTA会長1人・学校医1人

## (2) モデル校における推進体制

宇美小学校の推進体制として、有識者のほか、主幹教諭、栄養教諭、町教育委員会、町食育推進アドバイザーで構成される「つながる食育推進委員会」が設置されている。

宇美小学校を受け持つ栄養教諭は、平成 27 年から配置されており、他校等の兼務はない。

図表37 つながる食育推進委員会の構成

モデル校	・主幹教諭1人・栄養教諭1人
関係者	・町食育推進アドバイザー1人
有識者	・福岡女子大学名誉教授、教授及び講師3人・九州栄養福祉大学准教授1人
行政(町)	・町教育委員会(学校教育課長1人、係長(管理栄養士)1人、指導主事1人)

## (3) 連携機関及び連携内容

宇美町では、福岡女子大学と連携し、平成 28 年度の SSS 事業で SOC (首尾一貫感覚) による食育の評価を行っており、本年度のモデル事業においても引き続き同大学から食育プログラムに関する指導・助言を得ている。

また、平成 28 年度の SSS 事業の際に保護者等で設立された「宇美町給食応援団」(平成 29 年度の団員は 29 名) とも連携を図っており、給食の時間に同応援団が各学級を訪問し、食事のマナーや食べ方等についてのサポートを行っている。

図表38 モデル事業における連携機関と連携内容

連携機関名	連携内容
福岡女子大学 九州栄養福祉大学	食育プログラムに関する指導・助言、アンケート等の調査結果の評価・分析
宇美町給食応援団 (宇美町教育委員会・PTA・地域コミュニティ・JA・生産者団体等)	給食の時間の訪問指導 食に関する体験活動への協力 食に関する各種イベントへの協力
宇美町商工会	啓発プログラムへの協力 食に関する各種イベントへの協力

## IV. モデル事業の取組概要

### (1) 食に関する指導の全体計画の概要

宇美小学校の平成 29 年度の食に関する指導の全体計画では、「食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する」「心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい食事のとり方や食事の栄養を理解し、自らを管理していく能力を身につける」「食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける」の3点を重要目標として位置付けている。

平成29年度 食に関する指導の全体計画

宇美町立宇美小学校

授業の実態  
食に関する関心は、比較的高く食  
事の大切さを楽しんでいる。食  
に関する関心の二極化が顕  
在している。

学校教育目標  
ふるさと宇美を愛し、誇りを持って生きる子どもの育成

学習指導要領1-3  
食育基本法  
食育推進基本計画  
教育委員会の方針

食に関する指導の重点目標  
○ 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。  
○ 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい食事のとり方や食事の栄養を理解し、自らを管理していく能力を身につける。  
○ 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける。

幼稚園保育所 食に関する児童の実 態に関する情報交換	各学年の食に関する指導の目標			中学校 ・栄養士による献立交流 ・小中連絡会で児童の実態 に関する情報交換 ・アレルギーに関する情報 交換
	低学年	中学年	高学年	
アレルギーに関する 情報交換	○食べ物のお名前がわかる。 ○食べ物に興味をもつ。 ○みんなで楽しく食べる。 ○準備や後片付けが上手にできる。 ○好き嫌いをしないで食事をする。 ○感謝の気持ちをもって食べることが できる。	○食物には体のための栄養が入っているこ とがわかる。 ○食べ物の働きによって3つのグループに 分けられることがわかる。 ○協力して準備や後片付けができる。 ○自分の体を考えた食事を心がけることが できる。 ○自分たちの食事には地域やそこに住む 人々との深い繋がりがわかることがわかり、感 謝して食べることが出来る。	○食事が体に及ぼす影響や食品をバランスよく組み合 わせて食べる事の大切さを理解することができる。 ○食品の成分表示から安全性等を判断することができる。 ○食事のマナーを考え、楽しく食事をすることができ る。 ○地域に昔から伝わる食文化や歴史に関心を持つこ とができる。 ○給食に関わる人々と自然の恵みに感謝して食べるこ とができる。	

特別活動	学級活動 及び給食時間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		○学級活動 ○食に関する指 導 ●給食指導	○給食のきまりをおぼえよう ◎給食について知ろう ●楽しく笑顔で食べよう ※「たのしい食育つながる食育」の活用	○給食の約束、歯の健康 ◎歯の健康 ◎給食のきまりを覚えよう ※「たのしい食育つながる食育」の活用	○夏の食生活(夏休みの健康) ◎食べ物の名前を知ろう ●楽しく笑顔で食べよう	○夏の食生活(夏休みの健康と運動) ◎食べ物の働きについて知ろう ●食事の環境について考えよう	○夏の食生活(夏休みの健康と運動) ◎季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○健康な生活習慣 ◎食べ物に関心を持とう ●食べ物を大切にしよう	○健康な生活習慣 ◎食べ物と健康について知ろう ●食べ物を大切に感謝して食べよう	○健康な生活習慣 ◎食べ物と健康について知ろう ●食べ物を大切に感謝して食べよう	○冬の食生活、風邪の予防 ◎食べ物についてふりかえろう ●給食の反省をしよう	○冬の食生活、風邪の予防 ◎食生活を見直そう ●1年間の給食をふりかえろう	○冬の食生活、風邪の予防 ◎食生活について考えよう ●1年間の給食をふりかえろう
全校一斉 指導等	◎笑顔でたべよう ◎一口30回かもう ◎丈夫な歯を作ろう 交流給食		◎主食の大切さを考えよう	◎実りの秋について考えよう(福岡県産農産物) ◎宇美小ボク山にぎり	◎季節を味わおう								
学校行事	発育測定、遠足、家庭訪問、 宿泊学習、食育月間、試食会 弁当の日(おにぎり)		個人懇談、夏休み、発育測定 運動会	遠足、修学旅行、食育参観、弁当の日、 宇美小まつり、冬休み	弁当の日、親子料理教室 発育測定								
児童会活動													

教科との 関連	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	国語	サラダで元気	おばあちゃんにきいたよ(七 草)	ゆうすげ村の小さな旅館	暮らしの中の「和」と「洋」 を調べよう	
理科			植物を育てよう	季節と生き物	生命のつながり	体のつくりと働き 植物の成長と水の関わり
社会			働く人と私たちの暮らし スーパーマーケットで働く 工場(農業)の仕事	私たちの住んでいる県 住みよいからしをつくる	私たちの生活と食料生産 くらしを支える食糧生産 米作りが盛んな地域 水産業が盛んな地域 これからの食糧生産と私たち	日本の歴史 縄文のむらから古墳のくにへ 長(続いた)戦争と人々のくらし 世界の中の日本 日本とつながりの深い国々
生活	うみしょう大好き おてつだいさくせん かぞくいっしょにおしょうがっ	花や野菜を育てよう いもを育てよう ふゆやさいを育てよう				
家庭					始めてみようクッキング 元気な毎日と食べ物 家族とホットタイム	工夫しよう朝の生活 工夫しよう楽しい食事
外国語						
体育 (保健領域)			けんこうな生活	育ちゆく体とわたし		病気の予防
総合的な学習				日本の食について考えよう	大豆名人になろう	うま味の秘密
道徳		かむかむメニュー 元気にそでミニトマト	ぼくのお弁当		インスタントラーメン誕生 お父さんのお弁当	
学級活動	給食当番の仕事がんばろう おはし名人になろう 上手な食べ方をしよう 野菜のいいところを考えよう 元気な体をつくらう 歯を大切にしよう	何でも食べよう 歯の大切さを知ろう よくかんで食べよう すばやいはいせんをしよう 給食の先生に感謝しよう 目を大切にしよう かぜにまけない体をつくらう	上手に手を洗おう 虫歯遠征大作戦 大丈夫あなたの飲み物 運んでたべよう 給食週間について話し合おう 目を大切にしよう	成長する心と体 おにぎり弁当の計画を立てよう 楽しいふんいきで食べよう 冬の健康	健康な生活をしよう 丈夫な体をつくる栄養について 考えよう	食べ物と歯について考え よう 和食について考えよう 給食集いをしよう 風邪に負けない体を作ろう
家庭地域との連携の 取り組み方	学校便り、給食便り、食育だより、保健便り、給食試食会、食育参観、講演会、PTA活動での食に関する啓発 学校とPTAの協力による「早寝早起き朝ごはん」の取り組み、給食応援団による食に関する支援、料理名人コンクール参加のよびかけ 親子料理教室の開催、食育に関する講演会					
地場産物活用の方針	児童に地域の産業や文化に関心をもち、地域において農業等に就いている方々に感謝の気持ちを抱かせるため、また、安全性の面から地場産物を積極的に取り入れていく。 宇美町の食材(マルトしょうゆ、さんさん21のたまねぎ等) 粕屋産の食材(米、野菜、果物等) 福岡県産農水産物(野菜、果物、大豆、大豆製品、小麦粉、海産物等)を取り入れる。					
個別相談指導の方針 及び取り組み方	学校長、保健主事、担任、栄養教諭、養護教諭、給食主任等と保護者との連携を図り児童の実態把握を的確に行いながら個別指導にあたる。 ・アレルギー対応給食の取り組み(保護者との定期的な連絡会) ・肥満児童に対する養護教諭や栄養教諭による健康指導 等 ・家庭と連携した食生活についてのアンケート実施、備食指導					

## (2) 学校における主な取組や指導内容

### ① 全校一斉食育参観

平成 29 年度は通常の授業参観（クラス・授業毎に内容を設定）とは異なり、全てのクラスで食育に特化した授業参観を実施した。

教科等の学習を通して自分自身の食習慣等について振り返り、課題意識を高め、さらに改善に向けた実践へとつなげた。授業には、ゲストティーチャーとして、栄養教諭のほか、養護教諭、町保健師、町栄養士、福岡女子大学・九州栄養福祉大学の学生等が参加している。また、食育に関する授業参観にあたり、保護者に向けては、「授業ガイド」を配布し、学習内容のねらいを分かりやすく伝えた。こうした食育参観を行うことで、学習したことを元に、家庭でも話し合うきっかけづくりとしている。

さらに参観後の懇談会では、食に関するテーマを設定し、保護者の食や食育に対する意識を高めた。

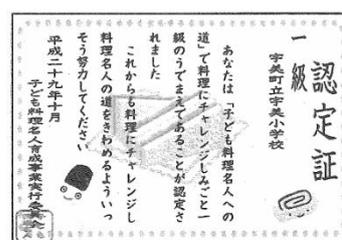
### ■ 食育参観の教科と単元

学年	教科	単元
1 年	学級活動	福岡女子大学・九州栄養福祉大学の学生をゲストティーチャーに迎え、お箸の正しい持ち方を考える
2 年	生活科	福岡女子大学・九州栄養福祉大学の学生をゲストティーチャーに迎え、6 月から育てているサツマイモのよさや料理について考える
3 年	体育(保健)	養護教諭・町保健師をゲストティーチャーに迎え、健康によい生活について考える
4 年	総合的な学習	マナー講師から学んだことの振り返りや、お箸の使い方の実践を通して、正しいマナーについて考える
5 年	家庭科	栄養教諭、町栄養士をゲストティーチャーに迎え、栄養バランスの良い食事について考える
6 年	総合的な学習	「だし」の試食を通して、「だし」のよさや「うま味」について考える

### ② 子ども料理名人の取組

平成 28 年度まで実施されていた福岡地区学校給食連合会主催の「子ども料理名人」が終了したことを受け、宇美町独自で実行委員会を立ち上げ、「子ども料理名人」の企画・実施の継続を図っている。実行委員会には、宇美小学校栄養教諭が企画し、取組の方向性の確認や内容の精選を行っている。児童は夏休み期間中に、自分の挑戦する級（6 級～名人）の料理を考え、料理をつくり、夏休み明けに応募用紙（料理名、材料名、作り方、できあがりの写真、感想）を提出すると、認定証が配布される。

6 年間で全級達成できるように、初級（5・6 級：つくる料理 1 品）は低学年、中級（3・4 級：つくる料理 2 品）は中学年、上級（1・2 級：つくる料理 3 品）は高学年、特級（名人：つくる料理は何品でも可）としている。応募はいくつでも可となっており、児童一人ひとりが食に関心を持ち、調理への実践意欲を高めている。



【料理名人応募用紙】

また、各級で作る料理の例や作る際の約束を示すことで、児童のみならず、保護者が内容を理解し、家庭で調理する際の児童への支援に繋げている。

夏休み期間の実施は、家庭で行うため、食を通して保護者と児童がコミュニケーションを図る機会となっているとともに、保護者の食に対する意識を高める機会ともなっている。

■「子ども料理名人」提出数(平成 29 年 7 月～8 月)

6 級	5 級	4 級	3 級	2 級	1 級	名人	総数
100	114	198	55	155	57	4	683

### (3) 家庭や保護者との連携による取組内容

#### ① 保護者・地域住民による給食訪問サポート

保護者等で構成される「宇美町給食応援団」が、給食の時間に各学級を訪問し、食事のマナーや食べ方等について、サポートを行っている。

給食応援団による給食訪問サポートでは、給食の時間を通して、「①食への関心を高め、正しい食生活の習慣化を図る」、「②食事の重要性、食事の喜びや楽しさを理解させる」、「③食事のマナーや豊かな社会性を育てる」ことをねらいとしている。平成 29 年度は、年間 4 回（低学年 2 回、中・高学年各 1 回）訪問を実施し、紙芝居による栄養の話、食事のマナー等の指導を行っている。こうしたサポートを通じて、給食の時に食べ方や箸の使い方などのマナーに気をつけている児童は増加している。



【宇美町給食応援団】

また、保護者に給食応援団として参加してもらうことにより、保護者自身の食に対する意識を高めてもらう機会にもなっている。

給食応援団の活動については、毎回、参加した給食応援団のメンバーにアンケートをとり、改善点を次回に活かしており、回を重ねるにつれて子供への指導方法も上達している。

また、団員以外にも、福岡女子大学の学生、宇美商業高等学校の生徒が参加するなど、校種を超えた取組が図られている。宇美商業高等学校の学生は、家庭科の授業（学童期の食事）と連携して、授業後に活動している。

## ② 給食大好き！「もぐもぐカード」を活用した取組

毎日の好き嫌いをせずに給食を食べることができたかどうかを児童が家に帰ってから振り返って記録する「もぐもぐカード」を作成し、学校給食に対する意識を高める取組を行っている。

「もぐもぐカード」は、家庭に配布している給食献立表を工夫し、児童自身が「今月の目標」と「給食を残さず食べたかのチェック」を、また保護者が「家庭からの気づいたこと」を記載する欄を設けている。

「もぐもぐカード」を活用することにより、家庭で児童と一緒に給食についての話をしてもらうとともに、献立表を通じて、家庭と学校で児童の給食の実態把握の共有化を図っている。また、「もぐもぐカード」に自己評価を記載させることで、毎日の給食における残食について可視化することができ、振り返りが行いやすくなっている。

【もぐもぐカード】

## ③ 「朝食いきいきシート」を活用した学校と家庭とが連携した取組

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果から福岡県の児童の朝食摂取率をみると、「朝食を毎日食べる」「どちらかという食べる」と回答した児童の割合は、小学校 6 年生では 93.7% (全国平均：95.5%) となっており、全国平均と比較して低い状況となっていた。

そのため、福岡県教育委員会では、学校と家庭が連携した朝食の習慣化を図る取組を促進するため、平成 28 年度から「朝食いきいきシート」を作成し、県内の小学校（5～6 年生用）を対象に配布している。

児童自身が自分の朝食について振り返り（朝食を食べたかどうか、栄養のバランスは整っていたか）、栄養バランスのよい朝食を食べようとする意識を高めている。「朝食いきいきシート」には、保護者と担任がサインをする欄を設けており、学校と家庭が連携しながら取り組めるようにしている。

宇美小学校では、11 月から 12 月の 4 週間を目安に「朝食いきいきシート」に取り組み、朝食摂取率の向上やバランスを考えた朝食摂取について考えてもらう機会としている。その結果、4 週間の取組で、朝食を意識する児童が増加した。また、1 週ごとに振り返ることで、取組への意欲も継続した。

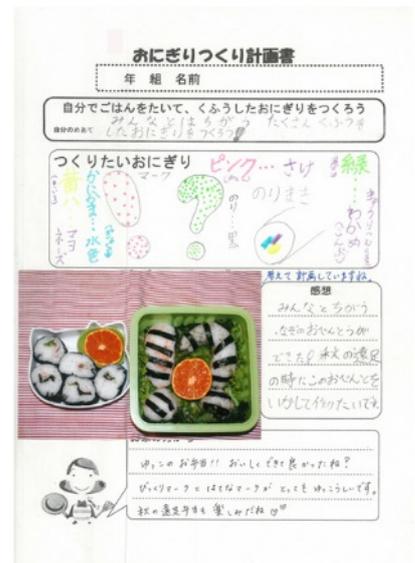
【朝食いきいきシート】

#### ④ 学校と家庭との食育をつなぐ「子どもが作る弁当の日」の取組

発達段階に応じて、自分の力で弁当を作り、学校で会食をする「子どもが作る弁当の日」を実施し、食に関する関心を高め、食に関する自己管理能力を育成している。

弁当の日に向けた事前指導として、給食時間、教科の時間（学級活動、高学年は家庭科）等を利用して、弁当づくりについての話を学級担任及び栄養教諭が行い、児童は弁当づくりの計画書を作成し、弁当の日に臨んでいる。実施日にあわせてスーパー等では「弁当の日」コーナーが設置されている。また、事後指導として、弁当づくりについて感想や手紙を書かせる振り返りを行っている。

このように、児童が保護者とともに弁当の献立を考え、作るという活動は、家庭において食について考える機会となっている。



【弁当づくりの計画書】

#### ■「子どもが作る弁当の日」の指導計画

	実施してほしい内容	ねらい
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>•おうちの人といっしょに献立(メニュー)を考える。</li> <li>•おうちの人といっしょに買い物に行く。</li> <li>•自分でお弁当箱につめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•食に関心を持つ</li> <li>•食品を選択する力</li> <li>•食事の楽しさ</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>•おうちの人といっしょに献立を考え、買い物に行く。</li> <li>•自分でお弁当箱につめる。</li> <li>•おにぎりを作るなどの簡単な調理やお手伝いをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•食に関心を持ち、食事の重要性を知る</li> <li>•食品を選択する力</li> <li>•食事の楽しさと調理の実践化</li> </ul>
5年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>•中学年までの内容</li> <li>•5年生での家庭科の学習を生かし、卵・野菜を茹でる料理等を自分で作る。</li> </ul>	
6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>•中学年までの内容</li> <li>•5・6年生での家庭科の学習を生かし、栄養バランスを考えて献立を決め、出来るだけ自分で調理をする。</li> </ul>	



【おにぎり弁当の日】

#### (4) 関係者が連携した町ぐるみの取組内容

##### ①「うみ共食の日」「うみ朝食の日」の設定

宇美町では、毎月第3日曜日を「うみ共食の日」、19日を「うみ朝食の日」とし、「共食」や「朝食」の大切さについて町ぐるみ、地域ぐるみで啓発している。

学校を通した「共食」「朝食摂取」の呼びかけのほか、公共施設、スーパー等への啓発パネルの設置を行っている。

啓発ポスターは、宇美町と「健康増進に関する包括連携協定」を締結している大塚製薬(株)との連携により作成されている。



【うみ共食の日・うみ朝食の日啓発ポスター】

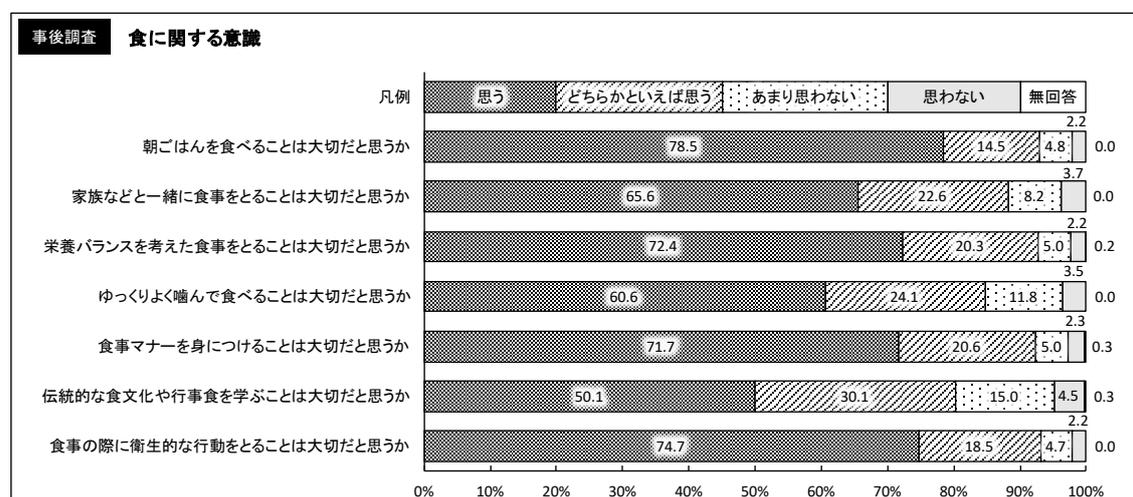
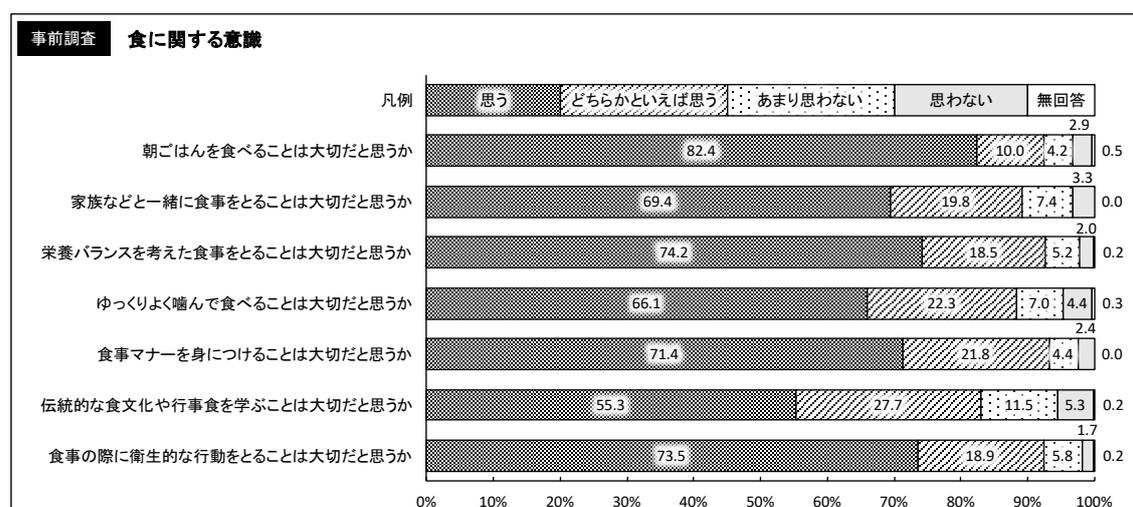
## V. 取組の成果と今後の課題

### (1) 児童アンケート調査（事前・事後）の結果からみた取組成果

#### ① 児童の食に関する意識の変化

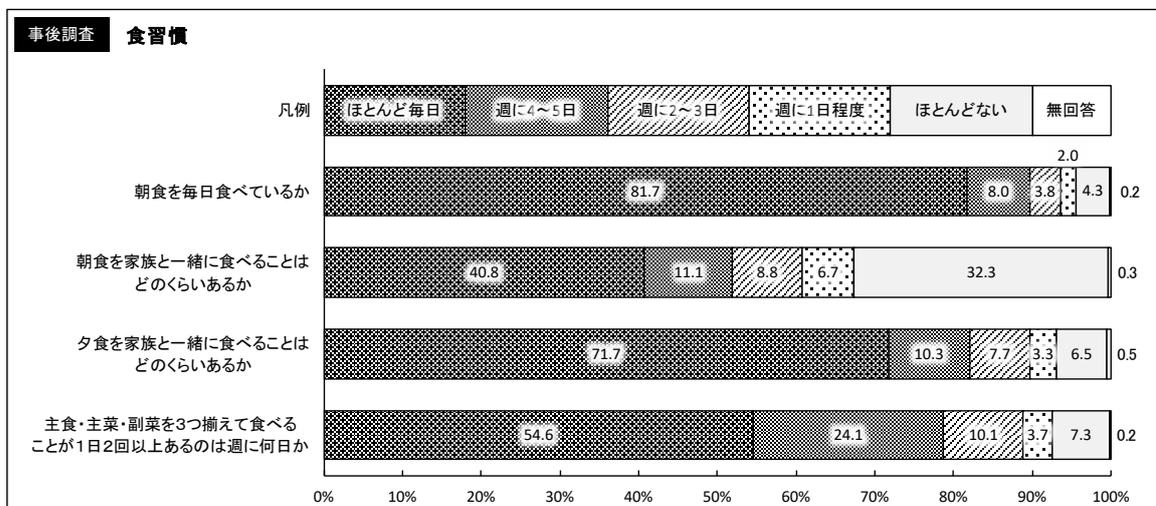
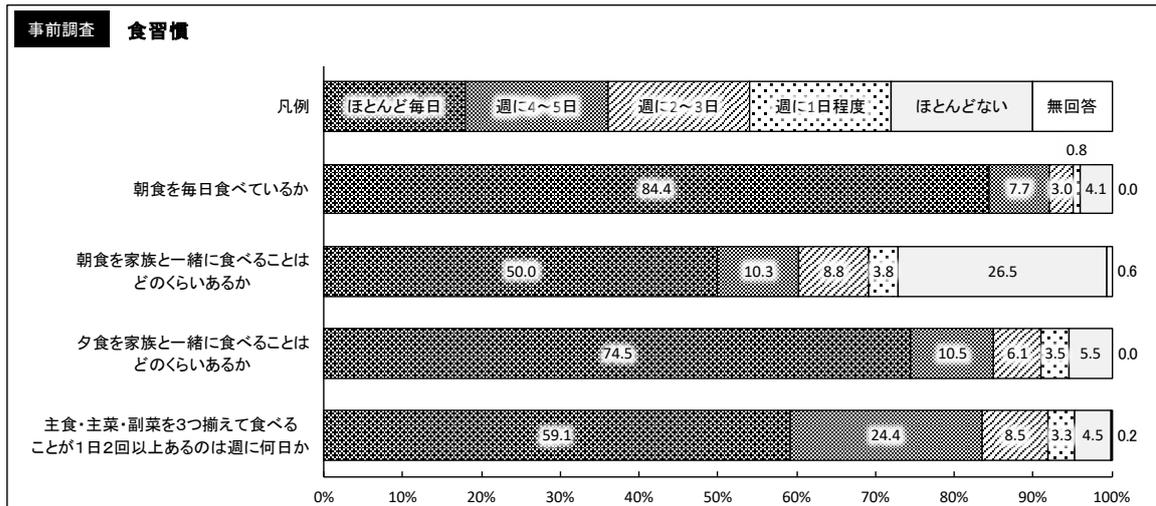
児童の食に関する意識をみると、大切だと思うこととしては、「朝ごはんを食べること」や「栄養バランスを考えた食事をとること」、「食事の際に衛生的な行動をとること」の割合が比較的高い。

また、児童の食に関する意識を事前調査と事後調査で比較すると、「朝ごはんを食べること」や「食事の際に衛生的な行動をとること」について、大切だとは思わない（思わない+あまり思わない）児童の割合がわずかながら減少している。



#### ② 児童の食習慣の変化

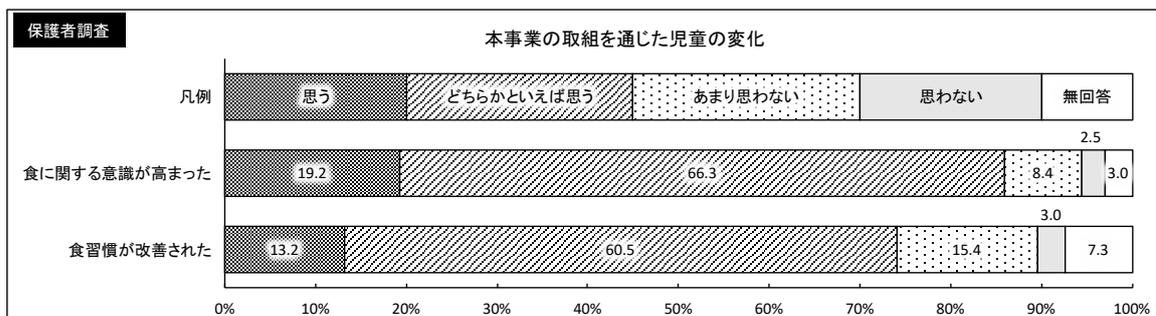
児童の食習慣をみると、朝食を「ほとんど毎日」食べている児童は約8割、夕食を「ほとんど毎日」家族と一緒に食べている児童は約7割を占めている。



## (2) 保護者アンケート調査の結果からみた取組成果

### ① モデル事業の取組を通じた児童の変化

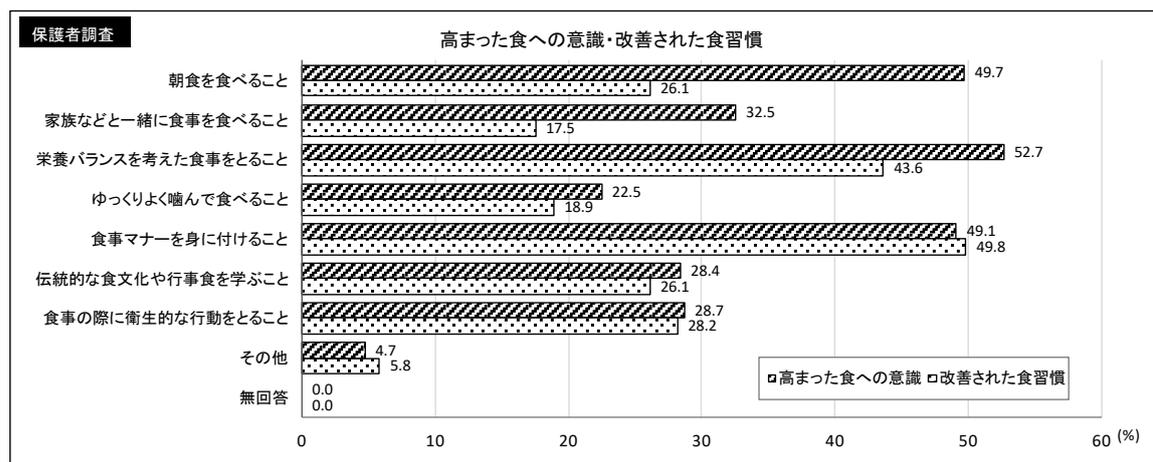
モデル事業の取組を通して、児童の食に関する意識が高まった（思う＋どちらかといえば思う）とする保護者は約 86%を占めている。また、児童の食習慣が改善された（思う＋どちらかといえば思う）とする保護者も約 74%を占めており、多くの保護者がモデル事業の取組を通じて児童の食に関する意識や食習慣の改善を認識している。



## ② 食に関する意識のうち高まったもの・改善された食習慣

保護者からみて子供のどのような食に関する意識が高まったかを具体的にみると、「栄養バランスを考えた食事をとること」や「朝食を食べること」、「食事マナーを身につけること」などについては、約5割の保護者が子供の意識が高まったと評価している。

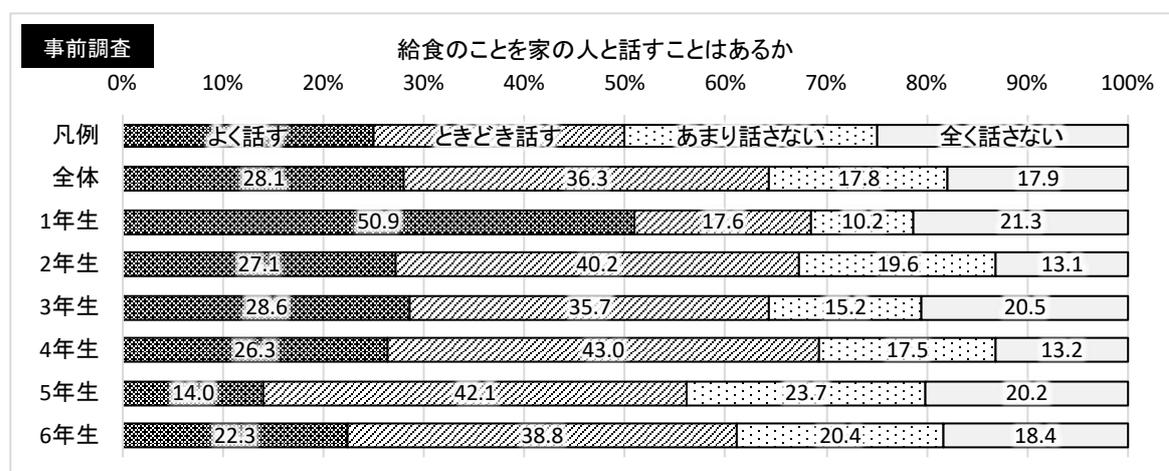
また、保護者からみて子供のどのような食習慣が改善されたかを具体的にみると、「食事マナーを身につけること」を挙げた保護者が最も多く、次いで、「栄養バランスを考えた食事をとること」の割合が高い。

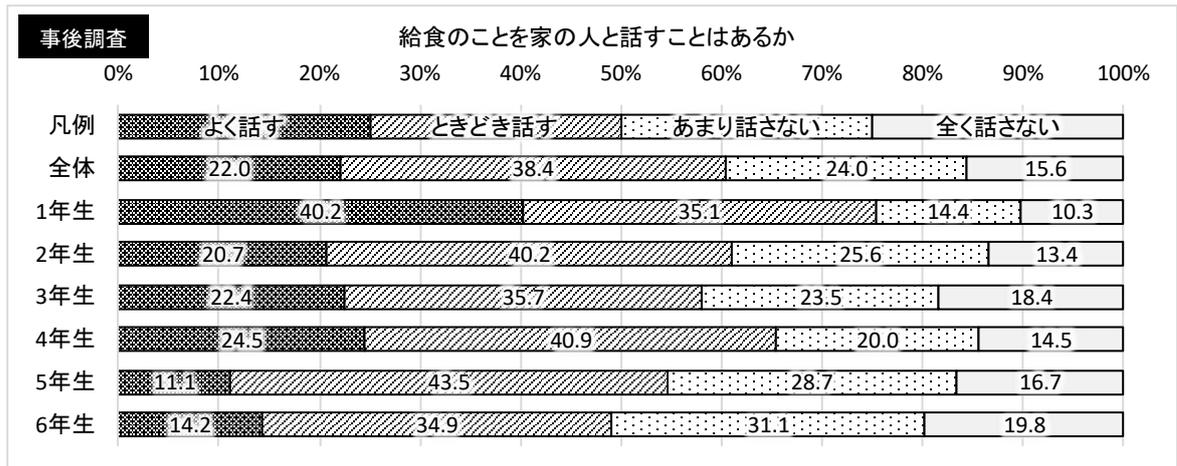


## (3) 独自評価指標等からみた取組成果

### ① 給食のことを家庭で話す児童の割合

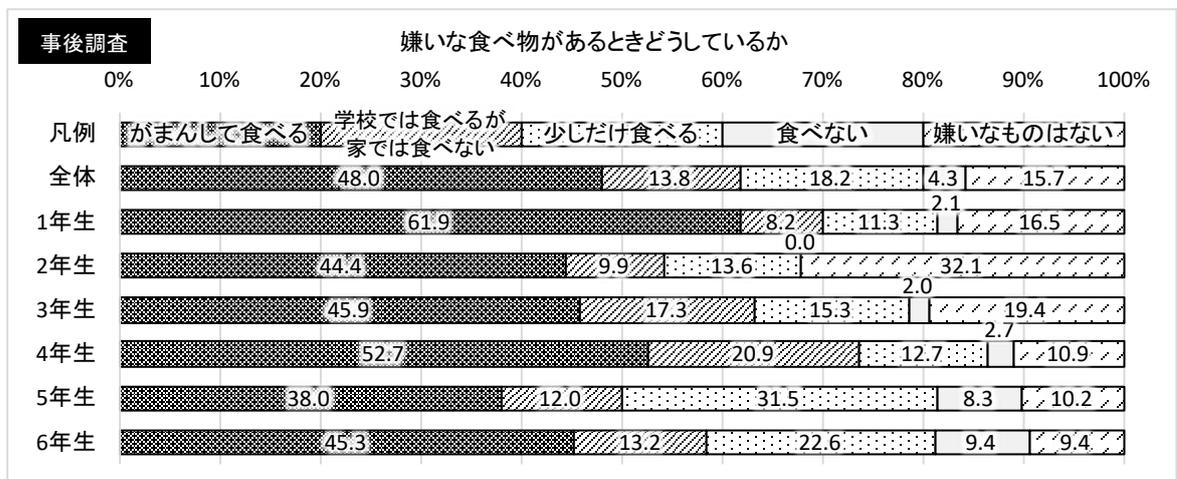
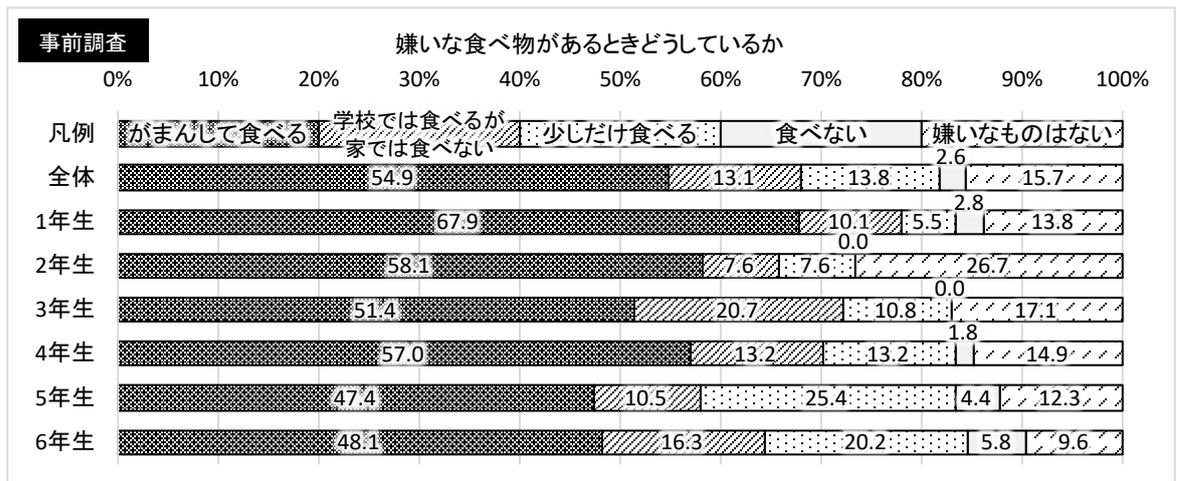
宇美小学校が平成29年7月と平成30年1月に児童に対して独自に行った給食および食事についての調査結果から、給食のことを家の人と話す児童の割合をみると、全体では、「全く話さない」が17.9%から15.6%に低下している。また、1年生において、「よく話す」及び「ときどき話す」をあわせると68.5%から75.3%に増加している。





## ② 嫌いな食べ物を我慢して食べる児童の割合

①と同じ独自調査の結果から、嫌いな食べ物の有無と給食等で嫌いな食べ物が出たときにどうするかを聞いたところ、「嫌いなものはない」とした児童の割合が1～3年生で増加している。



### ③ SOC（首尾一貫感覚）が高まった児童の割合

4～6年生の児童を対象に首尾一貫感覚（SOC、ストレス対処能力の指標）を測定したところ、46.7%の児童が本事業により有意味感、把握可能感、処理可能感の3つの指標の総合得点SOCスコアが高まっている。

また、学年別では、6年生において、把握可能感、処理可能感、SOCスコアで有意な増加が認められた。

図表39 モデル事業により SOC が高まった児童の割合(全体, N=306)

	改善した児童(人)	不変・悪化した児童(人)	SOCが高まった児童の割合
有意味感の変化	118	188	38.6%
把握可能感の変化	130	176	42.5%
処理可能感の変化	139	167	45.4%
SOCの変化	143	163	46.7%

図表40 モデル事業により SOC が高まった児童の割合(学年別)

	4年生			5年生			6年生		
	改善群 (人)	不変・悪化群 (人)	高まった 児童	改善群 (人)	不変・悪化群 (人)	高まった 児童	改善群 (人)	不変・悪化群 (人)	高まった 児童
有意味感 の変化	35	66	34.7%	36	68	34.6%	47	54	46.5%
把握可能感 の変化	40	61	39.6%	39	65	37.5%	51	50	50.5%
処理可能感 の変化	42	59	41.6%	46	58	44.2%	51	50	50.5%
SOC の変化	44	57	43.6%	46	58	44.2%	53	48	52.5%

[SOC（首尾一貫感覚）について]

SOCは、3種の低位概念、直面した出来事をポジティブにとらえて自分の成長の糧にする力である有意味感（meaningfulness）、直面した出来事や問題を把握したり予測したりできる力である把握可能感（comprehensibility）、上手く健康要因を動員して問題解決につなげる力である処理可能感（manageability）から構成され\*1、3者の合計により産出される。児童・成人別の定められた質問紙票で定量的に評価できるので、食育の成果を見える数値としてあらわすことができる。かつ、有意味感、把握可能感、処理可能感の値によって、児童への今後の教育上の焦点が付けやすいといった利点がある。

今回のモデル事業では、SOCの低位概念の有意味感・把握可能感・処理可能感をそれぞれ「やるぞ感」・「できた感」・「つづけよう感」と位置付け、これらを高めることをねらった食育プログラムを開発することとしている。

\*1 戸ヶ里泰典：AntonovskyによるSOC理論に基づくSOC介入方法に関する一考察と事例紹介，聖路加看護大学 Positive Psychology 勉強会，2007

#### (4) 取組成果のまとめ（総括）

宇美小学校では、全校一斉食育参観をはじめ、夏休み期間に家庭で料理をつくる「子ども料理名人」や保護者等で構成する「宇美町給食応援団」による給食の時間の訪問活動、「もぐもぐカード（給食献立表）」を使った児童自身の給食の残食等に関する振り返りと家庭との共有、県作成の「朝食いきいきシート」を使った朝食摂取に関する振り返り、児童が保護者と一緒に弁当の献立を考え作る「子どもが作る弁当の日」など、家庭との連携を深めながら様々な取組を行っている。

こうした家庭との連携を図った食育プログラムを実施することで、食についての関心が高まり、栄養バランスを考えた食事や食事マナーを身につけることへの児童の意識の向上が実践に結び付いている。

また、朝食摂取や共食の大切さについては、宇美町として「うみ朝食の日」「うみ共食の日」を設定し、地域ぐるみで啓発していることから、家庭での意識も高くなっている。

さらに、給食を通じた指導により、特に低学年で、家庭で給食について良く話す児童や、好き嫌いが少ない児童の増加も見られている。

## VI. 取組成果の普及方策

---

モデル事業の取組の成果は、福岡県や宇美町のホームページ、広報誌等を通じて情報発信するとともに、事業の成果を冊子にまとめ、県内外の教育委員会や県内の学校に周知することを予定している。

